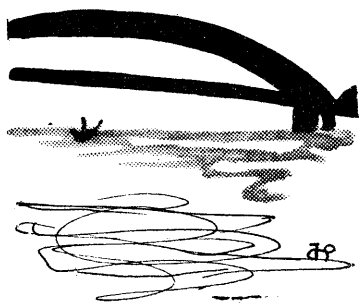


かけ出し教師と子供たち



去る四月、はじめて保育者として、また社会人としての第一歩を踏み出した私です。
毎日たまらなく苦しく悲しいことばかりでした
が……

A 生

社会人として保育者としての生活に第一歩を踏み出してから丸二カ月、何もかも驚く事ばかりの毎日に、ただもうめまぐるしい程に過ぎ去ってしまいました。

私の奉職した幼稚園、それは今迄見学したり想像したりしてきた幼稚園とはあまりにもかけ離れた所なのです。何も大学の附属の様な特殊な環境と同じものを、私が一般の地域に求めたものでは決して有りません。が、それにしても都会の中心にしかも公立でこれ程ひどい幼稚園があらうとは思いませんでした。

保育室二室以外には職員室も遊戯室もなく、床には所々破れ穴が開いていて、子供がお辨当の時うっかり床に落した箸が転

げこんでしまったり、又保育時間が終れば鼠がその穴から出入り入ったりして遊んでいるのです。天井からは、二階でがたごとする度にばらばらと砂が落ち、ひどい時には机の上一面ざらざらになってしまいます。雨が降れば、ばしゃばしゃと廊下に雨もりでバケツを三つも四つも配置しなければなりません。庭は庭で、たちまちのうちに池となってしまい、雨があがればすぐに、帚で掃き流すのです。雨さえ降っていなければ一日中でも外で遊ぶ子供達なのです。それに対し、屋外遊具はブランコ二つとすべり台が一つあるだけです。幼稚園設置基準がうるさく云われながら、一体これで八十名の園児に対して当てはまっているかしらと首をかしげてしまいます。

子供達の質はどうかと云いますと、放り出されの生活が大部分で、あとは無暗に甘やかされていて、教育という事については全く与えられていないと云っても過言ではないでしょう。無関心な親達……。でも今年は今迄よりはまた良くなった方だという事なのです。一昨年等PTAですべり台を買おうという問題が出た時に「洋服が汚れるから置かないでもらいたい」とか、又昨年は「父兄会等暇がないからやらないうで欲しい」と云った具合だったそうです。幼稚園はただ子供を時間内あずけておくとか考えないのかも知れません。

男の子の遊びと云えば、どこからか棒切を見付けてきてはそれで喧嘩をする様な事ばかりで、積木等では殆んど遊びません。

最近いくらか使い始めたと思いましたが、喧嘩の棒切の代りに振りまはしたり、自分の背丈程に積みあげてはそれを一撃のもとに壊すといった事を繰り返して喜んでいきます。女の子もままたごと遊びは少く、ただ人形を抱いている事、マリを手を持っている事だけで嬉しそうな顔をしています。

泣く子供も多く、そうした子供を親から離し面倒をみるのは精一杯で、あちこちにぼつんぼつんとぼんやり指を喰わえて立っている子供には気になりながらも仲々手がまわりません。お友達同志親切にしたり仲良く遊んだりする様子はあまり見られず、強い子供が弱い子供をからかったり、つついたりして、そこそせいじめる事が非常に多いのです。

鼻をたらししている子供に「鼻をかみましょう。」といいますがすぐかむまでは良いのですが、目をはなしていればその紙を保育室の、所かまわずぼんと捨ててしまいますし、廊下へ平気で唾を吐いたりもします。又約束という事が良く解らないのか例えば「ブランコに立って乗るのはやめましょう。」とお部屋でみんなで約束をし、その時は「はい。」と返事をするのですが、さてブランコに行くとき目で注意すれば「そんなの知らないよ。」とか「ああいんだよ。」等と云ってやめようとしません。当然家庭でなされていなければならぬ基礎的な躰をみんな幼稚園でしていかななくてはならないのです。

こうした環境に置かれ、この中で保育者としてやっていかな

ければならないのかと思えますと、恵まれた家庭の子供を整った設備の中で思う様に理想的な保育をしているお友達がうらやましく、何で私一人だけがこんな所へ来てしまったのか、みんなからはどんどん置き去りにされていく様で、考えれば考える程たまらなく悲しくなり、涙のかわく間のない毎日でした。

今迄一生懸命学んできた保育の勉強も無意味な事だと思ひもしました。自分で好きで選んだ道、それなのにこんな事では……私は真から子供が好きではなかったのか、保育という仕事を続けていく事は無理なのかと云う疑問さえ起りました。

けれど、「いやだ、いやだ。」の連続も一カ月を過ぎる頃から、少しずつ落ち付き、与えられた環境に於いて、自分の最善を尽さなければいけないのだと思う様になりました。学校時代の実習、それは確かに最高の保育でしたが、こうした環境に於いても保育の根本には変わりなく、方法さえ考えればよいのだという事がはつきりわかりました。何故なら、学校での実習は外に出ては、何にも役に立たないという事をよく耳にしていたからです。

音に合わせて手をたいたり歩いたりする事のまだまだ出来ない子供達、何事もあせらないでゆっくり時間をかけてしなければなりません。充分な環境に育てられている子供が一カ月で出来る事ならば、二カ月も三カ月も必要でしょう。

たった一年間、どれだけの進歩が見られるでしょう。明るい

はじめての保育の経験

子供、夢の持てる温かみのある子供になってくれたなら……。

保育に対する情熱も再び燃えはじめ、私の生活もどうやら軌道に乗ろうとしています。どの様な方法で保育をしていったら一番良いのだろう。どの様なものから入っていったら興味を起させる事が出来るだろう。等としなければならぬ事はいくらかでも有ります。これからが本当の保育の世界なのです。どんな荒波が押し寄せてくるのか。でももう大丈夫です。最初の打撃があまりに大きかっただけにこれからはどんな事にも決して負けは致しません。当面の問題に園舎の取りこわしという事が有ります。新しい園舎の建てられるのは何時の事か見通しは無い様です。すべり台もブランコも使えなくなってしまう。屋外遊具が一つもなくなったなら子供達はどうするでしょう。本当に子供のためにあらゆる工夫をしなくてはなりません。

それぞれの幼稚園で働いているお友達、どんなに良い環境におかれても、各々何かの問題に悩んでいます。しかし誰もくじけては居りません。「お互に頑張りましょう。」という事で慰さめ合って、慣れないながらも一生懸命仕事に励んでいます。

保育の世界に産声をあげたばかりの私、これから子供達と手を取りあって一歩一歩進んでまいります。そして幼児教育という尊い仕事に微力ながらも自分の最善を尽していくつもりです。



今、私の組の子供たちの中の一人で、常に私の頭を悩ませている子供を例にとつて、私の幼稚園生活第一歩の経験をここに紹介してみます。

T
生

はじめて私の接した幼稚園という社会は世の荒波をよそに何と暖く守られていることでしょう。「社会に出れば学生時代とは違うのだから」とか「いつも緊張して他の人と協調しなければ駄目よ」とか「今迄の様に自分の意志にまかせて自由な行動は出来ないのよ」等と先輩からいろいろ注意されていたのに。幼稚園は精神的には社会の中の温室と言える所だとささ今の私には思えるのです。私達を良く理解し何でも相談にのって下さる園長や主任、先輩の先生方の家庭的な雰囲気の中で安心して頼ったり、多少あまえたり出来るのですから。すべての幼稚園が皆この様であるかどうか解りませんが、現在の私は恵まれた環境にあると思っています。しかし反面、身体的にはちっとも